

学科名	放送芸術科
コース名	
授業科目	映像リテラシー E 1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	講義
時間数	30
単位数	2
担当教員	長濱和久
実務経験	有
実務経験職種	映像ディレクター/プロデューサー
授業概要	授業の前半では業界時事問題を取り上げ最新の業界動向や問題点を明らかにすると共に後半では映像メディアがビジネスとして成り立つ仕組みを媒体ごとに解説。
到達目標	映像メディア業界の現状に対する理解からテレビ・映像メディアの将来を予測し“考察力”“分析力”の向上を図る。
授業方法	学生の理解度を確認する為に授業内レポートを実施。これらを授業内でフィードバックする事で他者の考えを知る機会を与え自らの考えを導き出す。
成績評価方法	学期末に試験を行う。成績は試験結果と出席率の総合評価。積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。
履修上の注意	授業内で取り上げる現状やデータを自ら分析する事で自分自身の考えとして確立する事を求める。授業内での積極的な発言については平常点に加算する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に提示する。

授業計画	
第1回	テレビは死んでしまうのか？ データからテレビ現状を理解。映像メディアの発展構造から将来について考える。
第2回	映像で情報を伝える① サイレント映画の試写から“映像”のチカラを理解する
第3回	映像で情報を伝える② 落語番組の試写から“言葉”が持つチカラを理解する
第4回	映像で情報を伝える③ 映像がメディアとなった時に何が起きたか？プロパガンダについて理解する
第5回	授業内レポート① 映像で情報を伝える事について各自の考えを試写した作品の感想をもとに述べる
第6回	映像メディアが成り立つ仕組み① 映像メディアがビジネスとして成り立つ仕組みを理解する
第7回	映像メディアが成り立つ仕組み② テレビCMについて理解する
第8回	映像メディアが成り立つ仕組み③ 有料多チャンネルビジネスについて理解する
第9回	映像メディアが成り立つ仕組み④ 映像配信サービスの現状とビジネスについて理解する
第10回	映像メディアが成り立つ仕組み⑤ 映画業界の現状を理解する
第11回	テレビの未来を考えるヒント① 地上波IPサイマル放送の現状と問題点を理解する
第12回	テレビの未来を考えるヒント② 欧米諸国のテレビ業界の現状を理解する
第13回	授業内レポート② テレビの10年後を予想する
第14回	模擬試験① 学生の理解度を確認し問題点を明らかにする
第15回	模擬試験② 学生の理解度を再確認する。